

Subnormal operator に関する Scott Brown の定理について

神奈川県大工 泉池 敬司

§ 0. 序.  $H$  を separable, 無限次元のヒルベルト空間とする。ここでは作用素はすべて有界とする。作用素の不変部分空間の問題は色々と研究されていいるが、今まだに解かれに至っていない。normal 作用素に對しては自明でない不変部分空間が存在することはよく知られている。最近 subnormal 作用素も自明でない不変部分空間を持つことが、S. Brown によって示された。その後この idea が拡張されていく。ここでは S. Brown とその後の動きを紹介した。

§ 1. Subnormal 作用素の Conway and Olin の結果.

$S \in H$  上の subnormal 作用素とする。あるいは、 $H$  を含むヒルベルト空間  $K$  とその上の normal 作用素  $N$  が  $NH \subset H$ ,  $N|_H = S$  なるものが存在する。今後  $N$  は  $S$  の minimal normal extension (m.n.e.) とする。normal 作用素  $N$  に對して次を

みたす正測度  $\mu$  が存在する。

- 1)  $\mu$  の台は  $N$  の スペクトル  $\sigma(N)$  と一致する。
- 2)  $\exists \rho: L^\infty(\mu) \rightarrow w^*(N)$   $*$ -isomorphism,  $\equiv$   $\cong$   $w^*(N)$   
は  $N$  生成の von Neumann algebra である。
- 3)  $\rho(z) = N, \rho(1) = I$
- 4)  $L^\infty(\mu)$  と  $w^*(N)$  は弱\*位相と弱作用素位相にて homeo  
である。

この  $\mu \in N$  の scalar spectral measure といい。  $L^\infty(\mu)$  は  
多項式の  $L^\infty(\mu)$  に  $\subset$  の弱\*位相での閉包である。  $L^\infty(\mu)$  が  $f$  に対し  
 $L \subset f(N) \equiv \rho(f)$  とかく。  $f(N) \cap H \subset H$  より  $f(S) \equiv f(N) \cap H$  とす  
る。  $L^\infty(\mu)$  の構造は Sarason [11] により与えられている。  
これを用いて subnormal 作用素の性質を導くのが Conway  
and Olin [5] の仕事である。 S. Brown が見るとこれは、  
不変部分空間の問題を reduce するためのものがある。

Sarason 定理. compact set  $\tilde{K}$  と  $\tilde{\mu} \leq \mu$  に対しみたす  
ものが存在する。  $L^\infty(\mu) = L^\infty(\mu - \tilde{\mu}) \oplus H^\infty(\text{int } \tilde{K}, \tilde{\mu})$  かつ  
 $R(\tilde{K})$  は Dirichlet algebra.  $\equiv$   $\cong$   $R(\tilde{K})$  は  $\tilde{K}$  の外に pole を  
持つ rational fts の一様近似で、  $H^\infty(\text{int } \tilde{K}, \tilde{\mu})$  は簡単に書くと  
 $\text{int } \tilde{K}$  で有界正則関数を  $\tilde{\mu}$  に制限したものの全体である。

$f \in L^\infty(\mu)$  ならば  $f(S)S = Sf(S)$  より  $f(S)H$  は  $S$  の不変  
部分空間である。 よって:  $L^\infty(\mu - \tilde{\mu})$ -part あり 又は  $\text{int } \tilde{K}$

の component が 2 個以上あるならば,  $S$  は自明でない不変部分空間を持つことになる。よって, 2 subnormal 作用素の不変部分空間は次の時を考えればよい。

①  $\mathcal{P}^{\infty}(\mu) = H^{\infty}(\text{int } \hat{K}, \mu)$  で  $\text{int } \hat{K}$  は simply connected.

次に明らかに自明でない不変部分空間を持つ場合を除くことにする。Bram 定理より  $\alpha(S)$  は  $\alpha(N)$  の hole の "くっつき" をうめたものである。  $\alpha(N) \neq \alpha(S)$  ならば  $\lambda \in \alpha(S) \setminus \alpha(N)$  に対し  $(S - \lambda)H$  は自明でない  $S$  の不変部分空間になる。

②  $\alpha(S) = \alpha(N)$  と仮定してよい (= support  $(\mu)$ )

$a \in H$  が cyclic とは  $\{S^m a \mid m=0, 1, 2, \dots\}$  より生成される内部分空間が  $H$  と一致する時にいう。

①  $S$  は cyclic vector を持つと仮定してよい。

おとと複素平面上の測度  $\lambda$  が存在して  $S$  は  $H^2(\lambda)$  上の  $\pi$  を乗算する作用素  $M_{\pi}$  と unitary equivalent になる。  $\pi = z \cdot H^2(\lambda)$  は多項式の  $L^2(\lambda)$ -closure である。よって  $S = M_{\pi}$  on  $H^2(\lambda)$  と仮定してよい。よって  $N = M_{\pi}$  on  $L^2(\lambda)$  であり,  $\lambda$  はその scalar spectral measure である。

以上より次の場合に不変部分空間の問題を考えればよい。

③  $S = M_{\pi}$  on  $H^2(\mu)$  かつ  $\mathcal{P}^{\infty}(\mu) = H^{\infty}(\text{int } \hat{K}, \mu)$  ( $\text{int } \hat{K}$  は simply connected)

今少し問題を reduce する。  $\text{int } \hat{K}$  が simply connected かつ

$U = \{z \mid |z| < 1\}$  とおくと conformal map  $\varphi: \text{int } \tilde{K} \rightarrow U$  が存在する。 $\varphi$  により導かれる  $\bar{U}$  上の measure  $\varphi(\mu)$  により  $H^2(\mu) \ni f \rightarrow f \circ \varphi \in H^2(\varphi(\mu))$  は isometry となり, かつ不変部分空間も保存される。よ,  $\mathbb{Z}$  subnormal 作用素の不変部分空間の問題は次に変形される。

問題:  $\mathcal{P}^\infty(\mu) = H^\infty(U, \mu)$  がある時  $M_\pi$  on  $H^2(\mu)$  は不変部分空間を持つか?

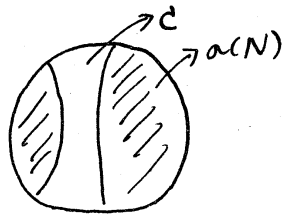
すなわち  $\mathcal{P}^\infty(\mu) = H^\infty(U, \mu)$  がある時次の2つの場合が考えられる。

[1]  $\exists f \in H^\infty(U)$  s.t.  $\|f\|_\infty^U > \|f\|_\infty^{U \cap \alpha(N)}$

[2]  $\forall f \in H^\infty(U)$   $\|f\|_\infty^U = \|f\|_\infty^{U \cap \alpha(N)}$

定理. [1] の場合  $S$  は reducing subspace を持つ。

(略証) 条件より  $\alpha(N) = \alpha(S)$  の hole  $C$  で  $\bar{C} \cap \partial U$  が2点以上にあるものがある。 $R(\bar{U} \setminus C)$  は  $D$ -algebra である。その



harmonic measure  $\mu$  とする。

$\mu|_{\alpha(\bar{U} \setminus C)} \ll \mu$  又は  $\mu|_{\alpha(\bar{U} \setminus C)} \not\ll \mu$

がある。  $\overline{R(\bar{U} \setminus C)}^{w* L^\infty(\mu)} H^2(\mu) \subset H^2(\mu)$

に注意する。 $\mu|_{\alpha(\bar{U} \setminus C)} \not\ll \mu$  ならば  $\overline{R(\bar{U} \setminus C)}$  は  $L^\infty$ -summand を含み,  $H^2(\mu)$  は  $L^2$ -summand を含む。故に reducing subspace を持つ。

もし  $\mu|_{\alpha(\bar{U} \setminus C)} \ll \mu$  ならば  $\mu$  は  $\partial(\text{int}(\bar{U} \setminus C))$  に台をもつから  $\bar{U} \setminus C$  は内点をもつ2つの部分に分かれる。

$f$  を  $\bar{C}$  で1他  $\bar{C}$  で0とおくと  $f \in \overline{R(\bar{U} \setminus C)} \subset H^2(\mu)$  となり  $f \in H^2(\mu)$

は reducing subspace とする。

[2] の時,  $S$  が 不変部分空間を持つ というのが S. Brown の定理である。

## § 2. S. Brown 定理の証明. ([3])

$C_1 \subset B(H)$  は trace class とする。  $C_1^* = B(H)$  である。

$B(H)$  に  $\lambda$  を  $w^*$ -位相  $\sigma$ - $w$ -top とする。これは

$B(H) \ni A \rightarrow \sum_{i=1}^{\infty} |\langle Ax_i, y_i \rangle|$  ( $\sum \|x_i\|^2 < \infty, \sum \|y_i\|^2 < \infty$ ) は連続

線形である。  $\sigma$  を弱位相とする。  $T \in B(H)$  に對して

$\{P(T) \mid P \text{ は多項式}\}$  の  $\sigma$ - $w$ -閉包を  $\mathcal{O}_T$  とかく。  $C_T \equiv C_1 / \mathcal{O}_T^{\perp}$

とする。  $\sigma$  の norm を  $\|\cdot\|_{\mathcal{O}}$  とかく。  $\mathcal{O}_T$  は  $C_T$  の dual である。

$x, y \in H$  に對して  $x \otimes y \in C_T$  は  $[x \otimes y](B) = \langle Bx, y \rangle$

( $\forall B \in \mathcal{O}_T$ ) により定義される。  $\|x \otimes y\|_{\mathcal{O}} \leq \|x\| \|y\|$  であり

$H \times H \ni (x, y) \rightarrow x \otimes y \in C_T$  は連続である。

$T \in B(H)$  に對して 2 次の性質  $\mathcal{E}$  を、そのを考える。

(a)  $H^{\infty}(U) \rightarrow \mathcal{O}_T$  なる onto isometry isomorphism なる

( $w^* \rightarrow \sigma$ -top) なる homeo なるものを存在する。

(b)  $\forall \lambda \in \mathbb{C}$  に對して  $T - \lambda, (T - \lambda)^*$  は dense range を持つ。

(c)  $\forall \lambda \in \sigma(T), \exists x_i \in H$  s.t.  $\|x_i\| = 1, \|(T - \lambda)x_i\| + \|(T - \lambda)^* x_i\| \rightarrow 0$

(d)  $\|h\|_{\infty}^{\sigma(T) \cap U} = \|h\|_{\infty} \quad \forall h \in H^{\infty}(U)$

S. Brown 定理:  $T$  が (a)  $\sim$  (d) をみたす.

$$\Rightarrow \forall \mathcal{L} \in \mathcal{C}_T \exists x, y \in H \text{ s.t. } \mathcal{L} = x \otimes y$$

系. subnormal 作用素は自明でない不変部分空間をもつ。

(証明)  $\varphi$  の reduction より subnormal 作用素  $S$  は (d)

をみたすと仮定してよい。(b) と (c) も成立すると仮定してよい。

よって  $S$  は自明でない不変部分空間を持つことがわかる。

(Conway and Olin より)  $H^n(U)$  が  $f \rightarrow f(S) \in \mathcal{O}_S$  は  $\mathcal{O}$  をみたす。

したがって  $C_0: \mathcal{O}_S \rightarrow f(S) \rightarrow f(0)$  は  $\alpha$ - $\omega$  連続である。よって

定理より  $\exists x, y \in H$  s.t.  $C_0 = [x \otimes y]$  ( $x \neq 0, y \neq 0$  である)。

$M \in \{S^n x \mid n=1, 2, \dots\}$  より生成される部分空間とする。

$\langle S^n x, y \rangle = C_0(S^n) = z^n(0) = 0$  より  $M \perp y$  である。よって

$M \subsetneq H$  である。もし  $M = \{0\}$  ならば  $Sx = 0, x \neq 0$  より

$\ker S$  が自明でない不変部分空間である。しかしこれに  $\mathcal{L}$  を自明でない不変部分空間をもつ。

次に定理の証明に移ろう。 $\lambda \in U$  に対して

$$C_\lambda: \mathcal{O}_T \rightarrow f(T) \rightarrow f(\lambda) \text{ とする。}$$

Lemma 1.  $T$  は (a) をみたす,  $\exists x_i \in H$  s.t.  $\|x_i\| = 1,$

$\|(T - \lambda)x_i\| \rightarrow 0 (i \rightarrow \infty)$  とする。 $\lambda \in U$

$$\Rightarrow \|x_i \otimes x_i - C_\lambda\|_2 \rightarrow 0$$

(証明)  $k(T) \in \mathcal{O}_T, \|k(T)\| = 1$  とする。 $\|k\|_\infty = 1$  である。

$k(z) - k(\lambda) = (z - \lambda)g(z)$  と書けて  $d = \text{dist}[\lambda, \partial U]$  とすると

$$\|g(z)\|_{\infty} \leq 2\|h\|_{\infty} d^{-1} \quad \text{よ, } 2 \|g(T)\| \leq 2\|h\|_{\infty} d^{-1}$$

$$\begin{aligned} | \langle x_i \otimes x_i - c_i \rangle (h(T)) | &= | \langle h(T) x_i, x_i \rangle - h(\lambda) | \\ &= | \langle \{h(T) - h(\lambda)\} x_i, x_i \rangle | = | \langle g(T)(T-\lambda) x_i, x_i \rangle | \\ &= \| (T-\lambda) x_i \| \| g(T)^* x_i \| \leq \| (T-\lambda) x_i \| 2\|h\|_{\infty} d^{-1} \rightarrow 0. \end{aligned}$$

Lemma 2.  $T$  は (b), (c) を満たすとする。 (c) より異なる

$\lambda_1, \lambda_2 \in \sigma(T)$  には  $\exists$   $U$  2 unit vectors  $x_i, y_i$  2

$$\| (T-\lambda_1) x_i \|, \| (T-\lambda_1)^* x_i \|, \| (T-\lambda_2) y_i \|, \| (T-\lambda_2)^* y_i \| \rightarrow 0$$

存在する。この時

$$1) \| x_i \otimes y_i \|_Q \rightarrow 0$$

$$2) \| x_i \otimes s \|_Q \rightarrow 0 \quad (\forall s \in H)$$

$$3) \| s \otimes x_i \|_Q \rightarrow 0 \quad (\forall s \in H)$$

(証明) 1)  $\exists B_i \in \mathcal{O}_T$  ( $\|B_i\|=1$ ) s.t.  $\|x_i \otimes y_i\|_Q = \langle B_i x_i, y_i \rangle$

$$\text{よ, } 2) | \langle B_i (T-\lambda_2) x_i, y_i \rangle - \langle B_i (\lambda_1 - \lambda_2) x_i, y_i \rangle | \rightarrow 0$$

$$| \langle B_i (T-\lambda_2) x_i, y_i \rangle | = | \langle B_i x_i, (T-\lambda_2)^* y_i \rangle | \rightarrow 0$$

$$\therefore (\lambda_1 - \lambda_2) \langle B_i x_i, y_i \rangle \rightarrow 0 \quad \therefore \|x_i \otimes y_i\|_Q \rightarrow 0$$

2)  $\exists B_i \in \mathcal{O}_T$  ( $\|B_i\|=1$ ) s.t.  $\|x_i \otimes s\|_Q = \langle B_i x_i, s \rangle$

(b) より  $\forall \varepsilon > 0$  には  $\exists$   $t \in H$  s.t.  $\| (T-\lambda_1)^* t - s \| < \varepsilon$

$$\therefore | \langle B_i x_i, s \rangle - \langle B_i x_i, (T-\lambda_1)^* t \rangle | < \varepsilon$$

$$| \langle B_i x_i, s \rangle - \langle B_i (T-\lambda_1) x_i, t \rangle | < \varepsilon$$

$$\therefore \exists \delta_0 \text{ s.t. } \forall \delta > \delta_0, | \langle B_i x_i, s \rangle | < \varepsilon$$

$$\therefore \|x_i \otimes s\|_Q \rightarrow 0$$

$$\exists) \exists B_i \in \mathcal{O}_T \quad (\|B_i\| = 1) \quad \text{s.t.} \quad \|s \otimes x_i\|_0 = [s \otimes x_i](B_i) = \langle B_i, s, x_i \rangle$$

$$\text{条件 1')} \quad \forall \varepsilon > 0 \quad \exists t \in H \quad \text{s.t.} \quad \|(T - \lambda_1)t - s\| < \varepsilon$$

$$\therefore \quad |\langle B_i, (T - \lambda_1)t, x_i \rangle - \langle B_i, s, x_i \rangle| < \varepsilon$$

$$-\bar{\rho} \langle B_i, (T - \lambda_1)t, x_i \rangle = \langle B_i, t, (T - \lambda_1)^* x_i \rangle \rightarrow 0$$

$$\therefore \quad \exists \delta_0 > 0 \quad \text{s.t.} \quad \forall \delta > \delta_0 \quad |\langle B_i, s, x_i \rangle| < \varepsilon$$

$$\therefore \quad \|s \otimes x_i\|_0 \rightarrow 0$$

Lemma 3.  $T$  は (d) を満たすとはす。

$$\Sigma(T) = \{ \lambda \mid \lambda \in a(T) \cap U \} \subset C_T \quad \text{とはす。}$$

$$\Rightarrow \quad \overline{\bigcup_{|\lambda|=1} (\lambda \Sigma(T))} = \text{closed unit ball of } C_T$$

(証明) 左辺は  $\beta'$ , 右辺は  $\beta$  とおく。  $\beta' \subset \beta$  は明らか。

$K \in \beta - \beta'$  とおす。

$$\exists \psi \in H^m(U) \quad \text{s.t.} \quad \begin{cases} [\psi(T)](K) = 1 \\ \exists r < 1 \quad \text{s.t.} \quad |[\psi(T)](K')| < r < 1 \quad (\forall K' \in \beta) \end{cases}$$

$$\text{とはす} \quad \|\psi(T)\| = \|\psi\|_0 \geq 1, \quad \text{条件 (d) 1')} \quad \|\psi\|_{\psi}^{a(T) \cap U} \geq 1$$

$$\therefore |\psi(\omega)| > r \quad \therefore |[\psi(T)](\omega)| = |\psi(\omega)| < r \quad \text{矛盾}$$

Lemma 4.  $\mathcal{L} \in C_T$  として  $s_n, s'_n \in H$  と  $\|s_n \otimes s'_n - \mathcal{L}\|_0 < \frac{1}{2^{2n}}$  とおす。  $T$  は (a) ~ (d) を満たす。

$$\Rightarrow \exists s_{n+1}, s'_{n+1} \in H \quad \text{s.t.} \quad \|s_n - s_{n+1}\| < \frac{1}{2^n}, \quad \|s'_n - s'_{n+1}\| < \frac{1}{2^n}$$

$$\|s_{n+1} \otimes s'_{n+1} - \mathcal{L}\| < \frac{1}{2^{2(n+1)}}$$

(略証)  $K = \mathcal{L} - s_n \otimes s'_n$  とおす。 Lemma 3 1')

$\lambda_1, \lambda_2, \dots, \lambda_m \in U \cap a(T)$  と  $c_1, c_2, \dots, c_m \in \mathbb{C}$  之次を揃え



のが存在する。  $\sum_{j=1}^m |c_j| < \frac{1}{2^{2m}}$ ,  $\|K - \sum_{j=1}^m c_j C_j\|_Q < \frac{1}{2^{2(m+1)}}$

各  $j$  に対し 2 unit vector  $\{t_{j,i}\}_{i=1}^{\infty}$  を  $\|(T - \lambda_j) t_{j,i}\| \rightarrow 0$

$\|(T - \lambda_j)^* t_{j,i}\| \rightarrow 0$  でありおおよそに取る。  $\beta_j \equiv \frac{c_j}{|c_j|}$  とおく。

$K_i \equiv (s_m + \sum_{j=1}^m \sqrt{c_j} \beta_j t_{j,i}) \otimes (s'_m + \sum_{j=1}^m \sqrt{c_j} t_{j,i}) \in C_T$  とおく。

Lemma 1, Lemma 2 より  $K_i \rightarrow s_m \otimes s'_m + \sum_{j=1}^m c_j C_j$  ( $\|\cdot\|_Q$ -norm)

$\varepsilon = \varepsilon'$  と十分大なる  $i$  に対し 2

$$\|L - s_m \otimes s'_m - (K_i - s_m \otimes s'_m)\|_Q < \frac{1}{2^{2(m+1)}}$$

$$\therefore \|L - K_i\| < \frac{1}{2^{2(m+1)}}$$

$$\varepsilon = \varepsilon' \begin{cases} s_{m+1} \equiv s_m + \sum_{j=1}^m \sqrt{c_j} \beta_j t_{j,i_0} \\ s'_{m+1} \equiv s'_m + \sum_{j=1}^m \sqrt{c_j} t_{j,i_0} \end{cases}$$

とおくと十分大なる  $i_0$  に対し 2 Lemma を用いる。

(S. Brown の定理の証明)  $\|L\|_Q < 1$  と仮定してよい。

$s_0 = 0, s'_0 = 0$  より出発して Lemma 4 より  $\{s_n\}, \{s'_n\}$  が作れる。

$\{s_n\}$  及び  $\{s'_n\}$  は Cauchy 列より  $s_n \rightarrow x, s'_n \rightarrow y$  とする。

$x, y$  は定理を用いる。

§ 3. S. Brown, B. Chevreau and C. Pearcy による拡張 ([4]).

S. Brown 定理に引き続くて, Agler が次を示した。証明の方

針は Brown の idea と同じである。

J. Agler 定理:  $T \in B(H)$  に対し  $\alpha(T) = \overline{1}$ ,  $\|T\| = 1$  とする。

$\Rightarrow T$  は自明でない不変部分空間を持つ。

緩い 2 次の形に拡張された。

S. Brown, B. Chevreau and C. Pearcy:  $T \in B(H)$  で  $\|T\|=1$  が

(\*)  $\sup_{\lambda \in \alpha(T) \cup U} |h(\lambda)| = \|h\|_\infty$  ( $\forall h \in H^\infty(U)$ ) とする。

$\Rightarrow$   $T$  は自明でない不変部分空間をもつ。

証明の方針はだいたい Brown 定理と同じであるが比較しな  
がら見ることにする。まず  $T$  は unitary と completely nonunitary  
contraction に分解出来るから、 $T$  は completely nonunitary  
contraction と仮定してよい。当然分解 (2) も (\*) をみたす。

① ([7], III章定理 2.1) § 2 の (a) がみたされる。

(注意) Nagy & Foias の  $\phi: H^\infty(U) \rightarrow \mathcal{O}_T$  の作り方において  
(\*) より  $\phi$  が isometry となり、 $\phi(w^* \rightarrow a, w)$  は homomorphism  
である。

よって  $\lambda \in \mathbb{U}$  に対し  $C_\lambda: \mathcal{O}_T \rightarrow h(\mathbb{T}) \rightarrow h(\lambda)$ ,  $C_\lambda \in C_T$   
が得られる。

②  $\alpha(T) = \text{left essential spectrum } \alpha_e(T)$  と仮定してよい。

とすれば  $T$  は  $T^*$  は固有値をもたない ([10])

よって  $\forall \lambda \in \alpha(T)$  に対し  $\exists x_i \in H$  s.t.  $\|x_i\|=1$ ,  $x_i \perp x_j$  ( $i \neq j$ )

$\|(T-\lambda)x_i\| \rightarrow 0$  (cf. (c)).

Lemma 1 はこのままの場合に保たれることを証明してあげる。

Lemma 2' の 2).  $\lambda \in \alpha(T) \cap U$ ,  $x_i$ : orthonormal sequence

s.t.  $\|(T-\lambda)x_i\| \rightarrow 0$

$$\Rightarrow \|x_i \otimes s\|_Q \rightarrow 0 \quad (\forall s \in H) \quad (\text{Lemma 2 a 2}).$$

$$(\text{証明}) \quad \exists k_i \in H^0(U), \|k_i\| = 1 \text{ s.t. } \|x_i \otimes s\| = \langle k_i(T)x_i, s \rangle$$

$$k_i(t) = k_i(\lambda) + (t-\lambda)g_i(t) \quad (g_i \in H^0(U)) \text{ とおく.}$$

$$\|x_i \otimes s\|_Q = k_i(\lambda) \langle x_i, s \rangle + \langle k_i(T)(T-\lambda)x_i, s \rangle \rightarrow 0$$

③  $T^m \rightarrow 0 (s)$  と仮定 (2 番). (completely nonunitary contraction たり  $T^m \rightarrow 0$  又は  $T^{*m} \rightarrow 0$ ,  $T^{*m} \rightarrow 0$  の時不変部分空間を  $m$  だけ  $T$  を  $m$  つかうだけ)

Lemma 2' の 3)  $\{x_i\}$  orthonormal sequence

$$\Rightarrow \|s \otimes x_i\|_Q \rightarrow 0 \quad (\forall s \in H) \quad (\text{Lemma 2 の 3})$$

証明は略すが  $2$  番ほど難かしい事では無い。③ を使う。

Lemma 2' の 1).  $\lambda_1, \lambda_2, \dots, \lambda_n \in \sigma(T) \cap U$  とする。

$$\Rightarrow \exists \{x_i^j\}, \dots, \{x_i^m\} \text{ mutually orthonormal sequence}$$

$$\text{s.t. } \lim_{i \rightarrow \infty} \|(T-\lambda_j)x_i^j\| = 0 \quad (1 \leq j \leq m) \text{ かつ } \|x_i^j \otimes x_i^k\|_Q \rightarrow 0 \quad (i \rightarrow \infty)$$

証明は [2] より  $\|(T-\lambda_j)x_i^j\| \rightarrow 0$  を示すことが出来る。

後半は,  $\exists k_i \in H^0(U)$  s.t.  $\|k_i\|_\infty = 1, \|x_i \otimes y_i\|_Q = \langle k_i(T)x_i, y_i \rangle$

$$k_i(t) = k_i(\lambda) + (t-\lambda)g_i(t) \quad (g_i \in H^0(U)) \text{ とおく}$$

$$\|x_i \otimes y_i\|_Q = \langle g_i(T)(T-\lambda)x_i, y_i \rangle \text{ より 従う.}$$

Lemma 3 は § 2 と同様に成立する。

Lemma 4 も同様に証明出来る。右に途中の unit vector

$\{e_j\}_{j=1}^m$  を取る時は Lemma 2' a 1) を使った取り出せば後は  $2$  番

-2 に直せばいい。

後の証明の残りは § 2 の定理とその系と同じく進むべき。

(注) この § の  $T$  も (a) がみたされた。しかし (a) における isometry の条件は  $\|h\|_\infty \leq \|h(T)\| \leq K \|h\|_\infty$  ( $\forall h \in H^\infty(U)$ ) であつても証明は同じく進むことができる。この点に注目して次章に進む。

#### § 4. J. G. Stampfli に よる 拡張. ([12])

まず定義をしよう。コンパクト  $M \subset \mathbb{C}$  が  $T \in B(H)$  の  $K$ -スペクトラル集合とは  $\|f(T)\| \leq K \|f\|_\infty^K$  ( $\forall f \in R(K)$ ) の時にいう。ここで  $R(K)$  は  $K$  の外に pole をもつ有理関数近似とする。  $K=1$  の時単にスペクトラル集合という。 subnormal 作用素  $T$  に対して  $\sigma(T)$  はスペクトラル集合である。 J. Agler 定理の  $T$  に対して  $\sigma(T) = \overline{U}$  はやはりスペクトラル集合である。

J. G. Stampfli 定理:  $\sigma(T)$  が  $T$  の  $K$ -スペクトラル集合とする。

$\Rightarrow T$  は自明でない不変部分空間をもつ。

この証明も本質的には Brown の方法と同じである。

J. G. Stampfli の証明においてはこの Lemma が重要な役割を演ずる。

Lemma 5.  $\sigma(T)$  が  $T$  の  $K$ -スペクトラル集合とする。

$T$  が complemented subspace  $T \subset \mathcal{L}$

$\Rightarrow$  次にわたす simply connected 領域  $G$  が次にわたすものが

存在する。  $\bar{G} \supset \alpha(T)$ ,  $R(\bar{G})$  D-algebra

$$\|h\|_\infty = \sup \{|h(\lambda)|; \lambda \in \alpha(T) \cap \mathbb{C}\} \quad \forall h \in H^\infty(\bar{G}).$$

よって今考えたい  $T$  に  $\bar{G}$  を  $\bar{G}$  が存在する。次に

$H^\infty(\bar{G}) \rightarrow B(H)$  の map がうまく作れると Brown の証明にうまく乗せられる。 Lemma 5 の証明もそうであるが、こ

こで  $M$  (Lak [6]) の道具を使う。まず  $R(\bar{G}) \ni f \rightarrow f(T) \in B(H)$

は representation である。  $R(\bar{G})$  が D-algebra であるから唯一

の spectral dilation  $C(\partial\bar{G}) \ni g \rightarrow U_g \in B(K)$  ( $K \supset H$ ) が存

在する。任意の  $x, y \in K$  に対して測度  $\mu(x, y) \in M(\partial\bar{G})$  が

$$(U_g x, y) = \int g d\mu(x, y) \quad (\forall g \in C(\partial\bar{G}))$$

と  $\mu(x, y)$  は  $\bar{G}$  の harmonic measure  $m_{\bar{G}}$  に  $\bar{G}$  に対して

連続であることに注意する。  $R(\bar{G})$  は  $H^\infty(\bar{G}) = H^\infty(m_{\bar{G}})$  が

pointwise bdy dense (w\* topology) であることに注意する。

よって  $\forall h \in H^\infty(\bar{G})$  に対して  $\int h d\mu(x, y)$  が定義される。

$$(h(T)x, y) = \int h d\mu(x, y) \quad (x, y \in H)$$

と  $h(T) \in B(H)$  が得られる。これは次をみたす。

$$\text{Lemma 6.} \quad \|R\|_\infty \leq \|h(T)\| \leq \|h\|_\infty \quad (\forall h \in H^\infty(\bar{G}))$$

初めの不等式は Lemma 5 より、後半は  $\|\mu(x, y)\| \leq K$  より得られる。

Lemma 6 より  $R_T \equiv \{h(T); h \in H^\infty(\bar{G})\}$  は  $B(H)$  の  $\bar{G}$

$\alpha$ -w 位相で閉になっている。これは  $\psi: \bar{G} \rightarrow D$  を conformal

map と  $\phi = \psi^T: D \rightarrow G$  とし  $S \equiv \psi(T)$  とおく.

$H^{\infty}(U) \ni f \longrightarrow f \circ \psi \longrightarrow f \circ \psi(T) = f(S) \in B(H)$  であり

$\|f\|_{\infty}^U = \sup \{ |f(z)| ; z \in \alpha(S) \cap U \}$  である.

$S$  と  $T$  は同じ不変部分空間を持つことを証明する. 又  $S$  は polynomial bounded より  $S^n \rightarrow 0$  と仮定してよい.

後は  $S$  と  $\{f(S); f \in H^{\infty}(U)\}$  に対して §3 の  $T$  と  $\alpha_T$  と同様に

話を進めよう. 以下 Lemma 3 は次の様になる.

Lemma 3'.

$\overline{\alpha} \{ \sum_{j=1}^n \alpha_j C_j ; \sum |\alpha_j| = K, \lambda_j \in \alpha(S) \cap U \} \supset \text{int ball } \{f(S); f \in H^{\infty}\}_*$

Lemma 4 に当る所は Lemma 3' を使って進めよう.

この定理の応用として次の系を得る.

系. 次の各条件を満たす  $T$  は自明でない不変部分空間を持つ.

a) 1)  $\alpha U \subset \alpha(T) \subset \overline{U}$

2)  $\|(T-\lambda)^{-1}\| \leq \frac{1}{\text{dist}[\lambda, \alpha(T)]} \quad \forall \lambda \notin \alpha(T)$

b)  $T$ : hyponormal かつ  $\alpha U \subset \alpha(T) \subset \overline{U}$

c)  $T$ : polynomial bounded かつ  $\alpha(T) = \overline{D}$

d)  $\text{Re } \alpha(f(T)) = \alpha(\text{Re } f(T))$  ( $\forall f \in \text{Re } \alpha(T)$ )  $\alpha(T)$  は hole ではない.

e) normal  $\rho$ -dilation がある.

§ 5. R.F. Olin and J.E. Thomson の結果. ([8], [9])

ここでは結果のみを述べる事にする.

Olin and Thomson 定理1.  $T$  が subnormal,  $\Lambda \in C_T$  とある  
 $\Rightarrow \exists x, y \in H$  s.t.  $\Lambda = x \otimes y$

$N$  は normal 作用素 とある。  $N$  は m.m.e. を持つ pure subnormal 作用素全体を  $\mathcal{S}_p(N)$  と書く。  $\mu$  は  $N$  の scalar spectral measure とある。

Olin and Thomson 定理2.  $N = M_2$  on  $L^2(\mu)$ ,  $L^\infty(\mu) = H^\infty(U)$  とする。

(1) もし  $f_0 \in H^\infty(U)$  として  $\|f_0\|_\infty^U > \|f_0\|_\infty^{U \cap \alpha(N)}$  ならば,

$U \setminus \alpha(N)$  の hole  $\Omega$  として  $\exists \lambda \in \Omega$  s.t.  $|f_0(\lambda)| > \|f_0\|_\infty^{U \cap \alpha(N)}$

ならば  $S$  に対して,  $\alpha(S) \supset \Omega$ ,  $\text{ind}(S - \lambda) = -1$

( $\forall S \in \mathcal{S}_p(N)$ ) である。

(2) もし  $\|f\|_\infty^U = \|f\|_\infty^{U \cap \alpha(N)}$  ( $\forall f \in H^\infty(U)$ ) ならば,

任意の  $U \setminus \alpha(N)$  の component  $\Omega$  と任意の自然数  $m$  に対して

$\text{ind}(S - \lambda) = -m$  ( $\forall \lambda \in \Omega$ ) となる  $S \in \mathcal{S}_p(N)$

が存在する。

## §6. 今後の問題集

1) Brown, Chevreau and Pearcy 定理の  $\star$  の条件を弱めること。たとえば  $(\star)$  の変形には  $\alpha(T) \supset \partial U$  に出るだろうか? もう少し一般化して,  $\alpha(T)$  の polynomial convex hull が  $T$  の spectrum に集合の時はどうか? (これは Stampfli の問題に

も関係してゐる)。

2)  $H = H^2(\mu)$  の時  $L^\infty(\mu)$ -不変部分空間が存在するといふのが Brown 定理である。これは  $H^0(\mu) \cap L^\infty(\mu)$ -不変部分空間は存在するのか? これは cyclic vector を持つ subnormal 作用素の hyperinvariant subspace の問題と同じである。

3) いかほどの  $T$  に対して Olin and Thomson 定理 I が成立するのか? Brown, Chevreau and Pearcy, Stampfli 定理の  $T$  はどうか?

4) Olin and Thomson 定理 2 の (1) において,  $U(N)$  の hole  $\Omega$  として  $\|f\|_\infty^{U(N)} = |f(\lambda)| \quad \forall \lambda \in \Omega$  なるものを対して  $\text{ind}(S-\lambda)$  ( $S \in \mathcal{S}_p(N), \lambda \in \Omega$ ) に対して何かいえるか? 任意の自然数  $k$  に対して  $\mu$  と上の性質をもつ hole  $\Omega$  として  $\text{ind}(S-\lambda) \geq -k$

( $\forall S \in \mathcal{S}_p(N), \forall \lambda \in \Omega$ ) なるものが存在は示さぬ。この逆は逆に  $\mu$  と  $\Omega$  によって決まるわけであるがこの関係を明らかにした。

このことと関係して次の Olin and Thomson 問題がある:

$\mu = \mu_1 + \mu_2$  ( $\mu_1 \perp \mu_2$ ) に対して  $\mu$  として  $\lambda \in \tilde{K}_1 \cap \tilde{K}_2$  ならば (ただし  $\tilde{K}_i$  は  $L^\infty(\mu_i)$  に対応して Sarason 定理より得られる)  $\text{ind}(S-\lambda) \geq -1$  ( $\forall S \in \mathcal{S}_p(N)$ ) ?

### References

1. J. Agler, An invariant subspace theorem, to appear.



2. A. Brown and C. Pearcy, Jordan loops and decompositions of operators, *Canad. J. Math.* 29 (1977), 1112-1119.
3. S. Brown, Some invariant subspaces for normal operators, *J. of Integral eq. and Operator theory* (to appear).
4. S. Brown, B. Cherrean and C. Pearcy, An invariant subspace theorem, to appear.
5. J.B. Conway and R. F. Olin, A functional calculus for subnormal operators II, *Memo. A.M.S.* 184 (1977).
6. W. Mlak, Decompositions and extensions of operator valued representations of function algebras, *Acta Sci. Math.* 22 (1969) 181-193
7. Sz-Nagy and C. Foias, Harmonic analysis of operators on Hilbert space, *Akademiai Kiado* 1970.
8. R. Olin and J. Thomson, Some index theorems for subnormal operators.
9. ———, Algebras of subnormal operators, to appear
10. C. Pearcy, Some recent developments in operator theory, *CBMS*, 36 (1978).
11. D. Sarason, Weak-star density of polynomials, *J. Reine Angew. Math.* 252 (1972), 1-15.
12. J.G. Stampfli, An extension of Scott Brown's invariant subspace theorem:  $K$ -spectral sets, to appear.
13. ———, Recent developments on the invariant subspace problem, to appear.